



第2会場●2F 自由研修室

■司 会／眞鍋 幸一 愛媛県 国立大洲青少年交流の家 所長
堺 康成 福岡県教育庁福岡教育事務所 主任社会教育主事

分科会の進め方

10:45~10:50

1 防府しあわせマルシェ

～笑顔を育て、つながりを創る市民参加型まちづくり～

10:50~11:20

柴田 優爾(山口県防府市) 防府しあわせマルシェ実行委員会 代表

中司 俊生(山口県防府市) 防府しあわせマルシェ実行委員会 副代表

動機と目標は、防府天満宮参道下の「回遊性」を拡大し、天神商店街まで人の流れを呼び戻し、賑わいと市民間の交流を創り出すことである。マルシェは「市場」、市民から出店者を募集し、農産物飲食加工品、手芸品、手づくり雑貨などを販売する。マルシェは、天神商店街振興組合と協働し、五日が土日に重なる天神五日市に合わせて自由参加型の市場として位置づけている。場所は、天神商店街の空き店舗前及び駐車場を活用してテントを張る。チラシ、当日の呼び物、福引きくじなどを工夫した結果、新規出店者が増え、同時に来場者も増加し、認知度が上がり、毎月開催の打診を受けるまでに成長している。

2 産官学の共創が生む力

～企業による食育の取組みを地域の未来づくりにつなげる～

11:25~11:55

難波 裕扶子(宮崎県日向市) 南日本ハム株式会社 総務人事部長付マネージャー(食育・広報担当)

当社は、2012年から日向市教育委員会の要請を受けて「企業等による出前授業」事業に参加し、2013年に県教育委員会のアシスト事業に登録。目標を食育による社会課題解決への貢献においている。活動テーマは「食べることは、生きること。」であり、当社の強みを生かした企業見学、出前講座、セミナーなど、食育と環境教育の資格取得者がオリジナルのコンテンツを開発して全世代を対象としたプログラムを提供している。共創の目標は関係者全員がwin-winになることであり、学校との協働では打合せを密にし、実施後はPDCAを欠かさず、プログラムの進化を目指して来た。食は人の未来（身体・心）を創るにもかかわらずないがしろにされがちであり、子どもだけでなく現役世代や高齢者へのアプローチも重要であると考えている。

3 人々を繋ぎ、対話を創りだす「公民館カレーの日」

12:00~12:30

松村 早紀子(佐賀県佐賀市) 佐賀市立循誘公民館 主事

「公民館カレーの日」は県と組んだ地域課題解決事業の副産物として生まれた。目的は交流と対話の促進である。平成25年度から毎月決まった日に異なる地域の団体がカレーづくりを担当し、関係者に振る舞うことが原則である。PTAが担当するときは、子どもが作り手になった。男性料理教室が担当したときは、メンバーの配偶者仲間が招かれた。公民館が担当したときは、高齢者、中学生およびその保護者に協力を呼びかけ、多世代間の交流になるように務めた。

28年度は地域福祉をテーマとした公民館講座の受講者が学びの実践として関わった。開催日は毎月10日としているが、時には土日の週末も開催した。開始は11:30。特別なプログラムは作らず、参加者は好きな時間に来館し、座った席で対話を楽しみ、カレーがなくなったら終了する。まちづくり協議会から米・珈琲の現物支援があり、当日の参加費：200円で貯っている。公民館に来たことのない人が来るようになり、カレーづくりから地域活動・地域デビューが始まっている。